

「家庭学習を生かし、自ら考え、進んで学ぶ児童の育成」
～義務教育9年間を見通した家庭学習の充実を目指して～

I 研究の内容

1 主題設定の理由

職員の昨年度の学校評価において『②家庭と連携し、家庭学習を習慣化させている。』の項目において、職員の90%が肯定的にとらえていたが、ややそう思わないが10%いた。その内容としては、「宿題をする習慣化」や「家庭との連携」に課題を感じていることがわかった。

保護者アンケートに寄せられた意見を見ると『子ども達が、マニュアルでなく、自分で考えて、自分の意見をしっかり発言できるような取り組みは、今後も続けてほしいと思います。』『家庭学習の時間が昨年より短く、内容も漢字練習やドリルしかしていません。幅広く興味を持ってほしいです。』など保護者も家庭学習のさせ方について問題意識があることがわかった。

そこで、今年度の校内研では、笛川小における家庭学習のあり方を見直し、取り組みの強化を図っていきたい。家庭への周知を徹底し、児童・学校・家庭が一体となって、取り組めるよう研究していくこととした。

2 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

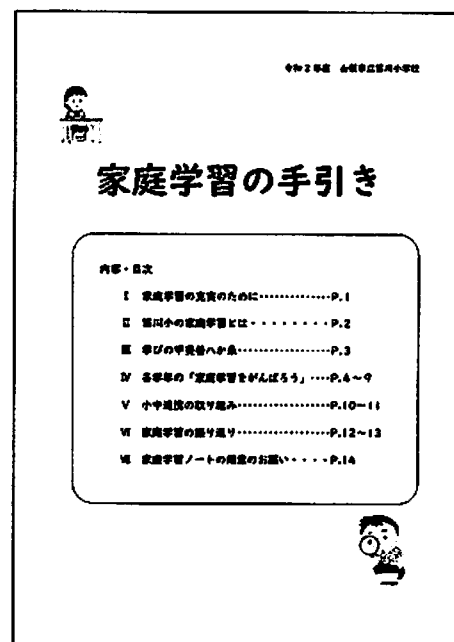
- ア 笛川小としての家庭学習の定義づけ（宿題との関係）
及び共通理解（職員同士・教師と児童・家庭と学校）
- イ 家庭学習の指導法の工夫と系統立て

(2) 研究の方法

- ア 文献や他校の実践を参考に笛川小の家庭学習のあり方を探る
- イ 一人一実践により実践研究を共有する
- ウ 児童・保護者アンケートにより家庭学習への意識を調べる。

3 研究実践

- (1) 研修会 『家庭学習の取り組みの工夫』
講師 教頭教育事務所 中村指導主事
- (2) 笛川小家庭学習の定義づけ及び手引き作成



(3) 一人一実践 (各学級においての取り組みの中間発表)

(4) 家庭学習力アンケートの実施 (6月と1月)

II 成果と課題

1 成果

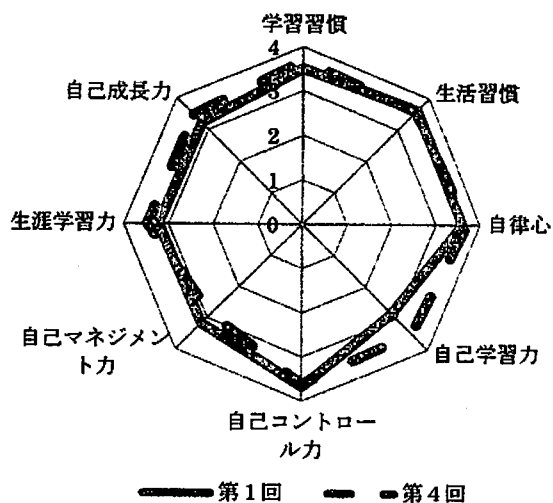
今年度、小学校6年間系統立てて、家庭学習に取り組んだことで、学習の幅が広がったり、家庭学習に取り組む児童が増えたりと学年相応の成果があった。

特に高学年においては、

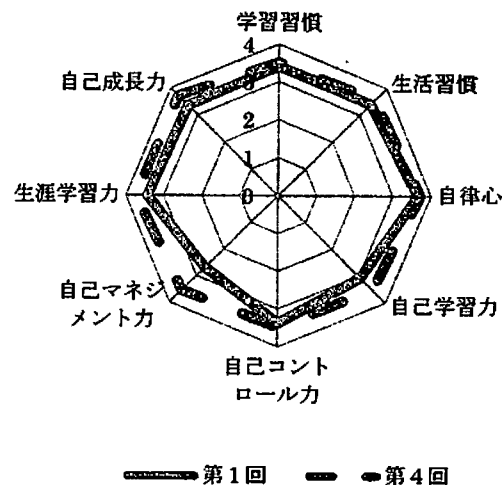
- ・自己学習力 (自分で決めて学習する力・計画・目標・教えあい)
- ・生涯学習力 (おとなになっても学ぼうとする力・社会・辞書・読書)
- ・自己成長力 (自分をもっと成長させようとする力・評価・得意・夢)

の3つの力が1学期よりも3学期に伸びている。テスト前に計画を立てて学習したり、目標を決めて学習に取り組まなかったりすることやわからないことを辞書やインターネットを使って調べたりしていることにより伸びたと考えられる。

5年 家庭学習力アンケート
第1回・第4回比較



6年 家庭学習力アンケート
第1回・第4回比較



2 課題

4年生以下の家庭学習に取り組んでいる児童は増えているが、『めあて』を立てて、学習を計画したり、学習後には『振り返り』をしたりすることの定着は十分とは言えない。今後継続して行っていく中で身についていけるよう指導が必要である。

また、どの学年においても、児童の学力差や家庭教育力の差により定着率の差が見られる。本人・家庭・学校が一体となって、家庭学習に取り組むことが求められる。

保護者アンケートの結果を見ても全体では68%の保護者が家庭学習の習慣について肯定的に見ている。残りの3割強の家庭・児童への支援を考えていかなければならない。

III 成果物

1 笛川小家庭学習の手引き

2 講師からの指導・助言・資料等

3 MYノート (高学年用)

(研究主任 上野 瞳)